

可憐でみずみずしい
新潟生まれのお姫さま

いちご「越後姫」

旬の時期

1月上旬～6月上旬

より甘く、より香り高く、そしてより美味しいいちごを目指し、6年もの歳月をかけ、新潟県が育成したオリジナル品種です。大粒で甘く、ほどよい酸味と豊かな香りがあります。可憐でみずみずしいお姫さまのようないちごです。



やわらかな果実とジューシーな甘さが好評

いちじく「越の雫」

旬の時期

8月中旬～11月中旬

みずみずしい果実の雫が舞い落ちたイメージから命名され、県内産の約7割が新潟市西蒲区で生産されています。

栄養価も高く、美容と健康にも良いと言われて、つぶつぶの食感と独特の香り、ほのかな甘みが特徴です。



あふれる気品、芳醇な香り、とろける甘さ

西洋なし「ルレクチェ」

旬の時期

11月下旬～12月下旬

100年ほど前にフランスから新潟に苗木を導入し、栽培が始まった品種です。やわらかな甘みで独特の芳醇な香りを持ち、とろけるような舌触りが特徴です。栽培が非常に難しく、生産量も限られているため“幻の西洋梨”と呼ばれていました。現在もそのほとんどが新潟で栽培されています。



旬の時期

10月上旬～11月中旬

わきでる甘さ、新潟の秋の味覚 こしわ 越王おけさ柿

形は扁平で、渋柿ですが種がありません。渋抜きすることによって甘柿にはないやわらかい肉質となり、とろけるような甘さがあじわえます。ビタミン含有量はフルーツの中でもトップクラスです。



旬の時期

8月上旬～10月下旬

大粒・甘口のぶどうの王様 巨峰

黒紫で美しく、大変食味に優れていることから“ぶどうの王様”と呼ばれる巨峰。新潟市の巨峰は、信濃川が運ぶ肥沃な土壌で栽培され、大粒で上品な香りを合わせ持っています。市内全体で生産されるぶどうの約80%を占めています。

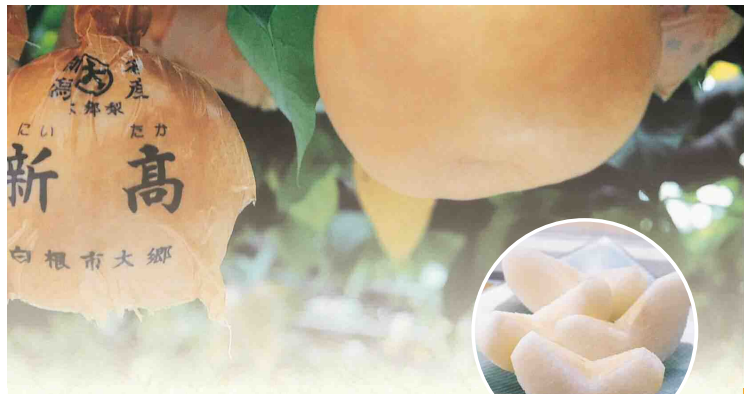


旬の時期

6月上旬～7月上旬

梅干や梅酒にも最高 とうごろうめ 藤五郎梅

江戸時代後期に宇野節次郎（屋号：藤五郎）が水戸から苗を持ち帰り、栽培したのが始まりで、その優れた品質から「藤五郎梅」と命名されました。果実が大きいため、梅干や梅酒に適しています。



大玉で肉質やわらか、秋の定番

にいたか
日本なし「**新高**」

旬の時期
8月上旬～12月下旬

果皮は淡黄褐色、果肉はやや粗めでやわらかく、香りが高く多汁で酸味が少なく甘い、日持ちするなしです。大型品種で、大きいものは1kgにもなり、見た目にも立派で贈答用としても人気があります。

甘くさわやかに香る秋の幸

しんこう
日本なし「**新興**」

晩生なしの代表品種であり、日本なしの中では最も遅い時期に収穫されます。果肉はやわらかく水分が豊富で、甘みと酸味がバランスよく調和しています。果皮は赤褐色の熟した光沢があり、日持ちが優れていることも特徴です。

旬の時期
8月上旬～12月下旬



春を告げる新潟のシンボル

チューリップ (切花・球根)



旬の時期

切花 11月上旬～4月下旬
球根 4月中旬～5月上旬

切花では、新潟市が全国トップクラスの生産量を誇り、“新潟市の花”にも指定されています。一重、八重、フリンジ咲きなど、バラエティに富んでおり、花色を含めると組み合わせは無限に広がります。



阿賀に咲く白の貴婦人
新テッポウユリ

「**ホワイト阿賀**」

花はボリューム・バランス・花もちともに良く、その姿から“阿賀に咲く白の貴婦人”と呼ばれています。新潟市の食と花の銘産品第1号に指定されました。

旬の時期

7月上旬～10月中旬



東洋一の生産量、
変化に富んだかわいい花木

ボケ

旬の時期

12月上旬～3月下旬

新潟市が国内生産量の約9割を占め、質・量ともに日本一を誇る花木です。品種改良が重ねられ、今ではその数が200種類以上にものぼります。花形が豊富で、品種によって同じ枝に白花と紅花をつけるものや、花色が変化するものもあります。



冬の室内を彩る鮮やかな色彩

アザレア

旬の時期

9月上旬～4月下旬

新潟市が日本一の生産量を誇る鉢花です。アジア原産のツツジがヨーロッパで品種改良されたもので、別名“西洋ツツジ”とも言われます。八重咲きのものが多く、色はピンク、赤、白、複色、絞りなどバラエティに富んでいます。



清楚な美しさ、冬の貴婦人

クリスマスローズ

旬の時期

12月上旬～4月下旬

キンポウゲ科の多年草で冬から早春の庭を彩ります。白や緑、ピンク、紫などの花はややうつむきがちで、清楚な美しさが魅力です。新潟市は育成の先進地で花色が良く優良品質の品物が揃っていることから、市場から高い評価を得ています。

